
東方夢幻想

スサノオS

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方夢幻想

【Nコード】

N3984BA

【作者名】

スサノオS

【あらすじ】

M - k^{マーク}は幻想郷に行きたいと本気で考えていた。35歳童貞のMはある日事故で死んでしまう。その後神が現れて…

プロローグ（前書き）

幻想郷に行きたい、そんな願いを小説してみた。処女作です。gd
gdですが暖かい目で見守ってくれると嬉しいです。

ブローグ

25XX年〇月×日、35歳童貞のm-k^{マーク}は交通事故で10tトラックに轢かれた。だがピンピンしている。

M「トラックに勝ったのか！俺tuee！」

？「そんなわけないだろ馬鹿者！」

…ごもつとも

でも傷ひとつないぜ、どうなってるんだ？

？「お前さんは…死んだんだww」

M「えっ」

wwってなんだよ（怒）ってかお前誰だよ

神「私はあらゆる世界を統べる神だ」

…

「スルースルーな！」

…（15秒の沈黙）スルーされたからなのかかまってちゃんだからなのか神はこう言った。

神「転生…してあげてもいいんだけどな」

M「ガタツ」M「転生…だと？俺の時代キター！」

これほどうれしいことはない。オタにとって転生は夢であり希望である。それが叶おうとしているのだテンションが上がらないわけがない。キリッ

神「…お前の転生先は幻想郷だがいいかな？」

M「いいとも」

神「パチパチパチパチ、さあ行ってくるのだ」

パカッ、足元からそんな音がした。

「なんだスキマか」。アー……！…転生早々スキマへと落とされてしまったorz

プロローグ（後書き）

M「おい作者！gdgdすぎるぞ（怒）」

作者「だって…初めてなんだもん、しょうがないじゃん（照）」

紫「じゃあ次からはもつとハードでもいいのね？」

作者「ゆかりんの鬼くそBBA！」

M「そうだ、いきなりスキマ送りしやがって」

紫「境符 2次元と3次元の境界！…黙って小説書いてろ（怒）」

作者「カエリタクナイヨー」ピチューン

登場人物（前書き）

主にオリキャラの人物紹介です。多分省いても問題ないはず（笑）

登場人物

M - k
マーク

自宅警備員の35歳童貞。3次元の女性に全く興味がなく、2次元の世界に没頭していた。いつか幻想郷に行くと本気で信じていた痛い人。

交通事故で死んだはずだったが神から転生してもらい、幻想郷に行くことになった。すでにある力に目覚めているらしいが本人は自覚してない。実は作者のインシヤルもM・Kなのだがきつと偶然だ
ww

神

神様。全ての世界を統べる（スベル）神。だじゃれ好きだがどの世界でもスベルため最近ではテンションが低めのようだ。

その他

幻想郷のみんな。誰を出そうか迷っているため簡単な説明になった。面倒だから説明省いたわけじゃないよ！

登場人物（後書き）

全員「なんで東方キャラの人物紹介があんなにテキトーなんだよ（怒）」

作者「時には手を抜くことも大切だよ、ねっ」

ねっ」が致命的だったようだ。全員から総攻撃を受けてボコボコにされた作者であった。

第一話　宙に浮く黒い影

「お前の転生先は幻想郷だがいいかな？」

「いいとも」

はっ。ここは…どこだ？俺は気を失ってたようだ。辺りは木々に囲まれている。どうやらここは魔法の森のようだ。ん？なぜ知っているかって？転生前までは自宅警備員のオタク。東方の世界だつてちゃんと分かっているさ！

M「しつかしあのスキマBBAめ、あんな落とし方しやがって（怒）次会ったら（性的な意味で）食べてやるゝグヘヘヘ」

？「そーなのかー」

M「俺の妄想が聞かれた！？てかなんか黒い物体がある」

物体というよりは宙に浮く影といったところだろう。はつきり言つてすぐ目立つ。そして嫌な予感しかないガクガクブルブル。気持ちを落ち着かせるためにとりあえず名前を聞くことにした。

M「君…名前はなんていうの？」

？「ルーミアだよ」

アーーーーッ（涙目）ヤバイ、かなりヤバイ。食べちゃうぞ…なんて言っているだけになおさらヤバイ。

ル「食べちゃうぞ…ってあなたは何を食べるの？やっぱり人間？」

俺死んだわ…こーなりやヤケだ！

M「そうだよゝ性的な意味でね（笑）」

ル「性的ってなんなのだ？それよりもさ、あなたは食べてもいい人間？」

転生早々命の危機！？LIFEカードは……

？その場から逃げる　？なんとかごまかす　？逆に性的に食べる
？ルーミアになら食べられてもいいハアハア

…どうすんの？どうすんのよ、俺！？　続く！

第一話　宇宙に浮く黒い影（後書き）

ちなみに作者は？を選びました。ロリが好きなんとちゃうで？ロリも好きなんやで？

この言葉は俺に希望をあたえてくれた。青髪ピアスさんパネェっす

ww

第二話　赤白黒白危機――（前書き）

危機なんてなかった。

第二話　赤白黒白危機――

ル「食べてもいい？」

M「ダ、ダメだよ。僕なんか食べてもおいしくないよブルブル」

ル「お腹すいてるから関係ないのだゝいただきます」

ゆつくりと近づく黒い影。さよなら俺の人生（泣）

ル「この人間臭くて食べれないのだー」

そう言つとルーミアは驚くほどの速さで去つていった……少し涙が出た。

？「あはははっ、臭いからルーミアに逃げられる人間初めて見たぜ」

……こいつは魔理沙に違いない。

M「見てたんなら助けてくれてもよかったんじゃないか？」

魔「ん？おもしろそうだから放つておいただけだぜ」

「……さすが魔理沙（泣）」

魔「私の名前を知っている！？マスタースパ」

M「マスパだめ！俺は転生して幻想入りしただけの一般人だから（泣）」

魔「そうか。てかルーミアに食べられそうになるほど弱いこいつが幻想郷を脅かすわけないなww」

……涙が出た。

魔「まあまあ泣くなつて。これから博霊神社に行くんだけど一緒に行くか？」

M「ぜひお願いします」

魔理沙マジ天使。さすが俺の嫁。

魔「じゃあ行くぜ！しっかりつかまってな」

魔理沙にしがみつける……だと！？ハアハア

少女移動中……

魔「ふう、到着！おゝい、生きてるか」

M「な、なんとかな」

ハアハアなんてなかった。幕で空を飛んだのだが回転しながら猛スピードで移動したり垂直に落下したりとジェットコースターよりも怖かった。

魔「でも楽しかっただろ」

M「まあな」

死にかけたが魔理沙にしがみつけたので良しとしよう。

魔「おーす霊夢！お茶とお菓子くれ！」

霊「相変わらず図々しいわね、魔理沙……それと、誰かしら？」

M「うおー霊夢だ！！本当に腋出してるww」プチッ。何か聞こえた気がした。ちよっ、おまつ、陰陽玉やめてー

ボコッバギグチャッ……ピチューン

霊「何か言うことはあるかしら？」

M「すいませんでした。お賽銭入るので許して下さい」

霊「いいわよ♪」

魔「おいおい…」

さすが霊夢だ、がめつい

「お賽銭は一万円からよろしく♪」

M「ニートの俺にそんな金あるわけ…ってあれ？」

M「マーク、手元にちゃんとあるぜ！」

霊「君マークって言うんだ。珍しい名前外の世界の人かしら？」

M「自己紹介がまだだったね。俺は…」

霊「そんなのどうだっていいからお賽銭ちょうだい♪」

魔「……ドンマイ」

とりあえずお賽銭を入れることに…しかしどこから湧いてきたんだこの金？……チャリーン

霊「まいどあり」

巫女の言うセリフじゃねえなあ。そう思いながら博霊神社の中に入った。

魔「こいつの名前はマーク。ルーミアに食べられそうになるところを私が助けてやったんだぜ！」

M「事実と違う！それに人物紹介になってない！」

魔「細かいなあ。そんなだからルーミアに食べられることになるんだぜ。ちなみに逃げられた理由は臭いから、だぜ」

霊「プツ、あはははっ！あのルーミアが逃げ出す臭さってどんだけよww」

M「もうタヒにたい（泣）」

霊夢・魔理沙「大丈夫、私には臭わないぜ・わ」

よかつたゝ二人にも臭いって言われたら救いようがないからなあ…なぜルーミアは臭いと感じたんだろう？他の二人には臭わないらしいが……わからん

魔「どうしたんだ？」

M「！？いや、なんでもないよ」

霊「ふゝん、まあいいわ。はい、お茶」

M「どうも」

うんうん、普通にうまい

少女休憩中……

魔「もう18時か、それじゃあそろそろ帰るぜ」

霊「そう、気をつけてね」

魔「おう！霊夢もマークに襲われないように気をつけるよ、じゃあな」

霊「な、なにを言ってるのよ（照）」

M「霊夢、噛んでる」

かわいいなあさすが俺の嫁（えっ嫁は一人じゃないですがなにか？）

霊「コホン、マークはどうするの？行く宛がないなら家に泊めてもいいけど」

M「マジですか!？」

霊「ただ、巫女ってやること多くて大変なのよね……誰か手伝ってくれないかな〜チラッ」

これは遠回りにやれと言ってるようなもんだよね……

M「家事は俺に任せろ」

霊「やった♪明日から掃除洗濯その他諸々よろしくね」

こうして博霊神社に住むことになった。明日から忙しくなりそうだ

……家事で（泣）

第二話　赤白黒白危機――（後書き）

作者「まとめきれないorz」

魔理沙「キーワードにチートと書いてるのにチートなんて無かったぜ！」

霊夢「あの一万円が何か関係してそうね」

作者「ビクッ。巫女の勘スゲー！（てか勘なのか？）」

作者「注：主人公はまだ能力に目覚めません。こんなgag gagな文章でよかつたらこれからもよろしく願います。」

魔理沙「てかこれ見てる人いるのか？」

霊夢「ほとんどいないでしょうね」

作者「自虐ネタやめろ（泣）」

霊・魔理「じゃあみんなに見てもらえるような小説書けよクソ野郎」

作者「……頑張ります（なんか作者に対して冷たいな）ショボーン」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3984ba/>

東方夢幻想

2012年1月13日18時45分発行